

第86回 横浜市立大学法人評価委員会会議要録

日時	令和3年7月16日（金）14時00分～16時00分
開催場所	横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス
出席委員	工藤委員長、有賀委員、今市委員、大久保委員、河合委員
欠席委員	なし
法人	小山内理事長、相原学長、遠藤副学長、中條副学長、相原事務局長ほか
事務局	関森大学担当理事、大塚大学調整課長、中村大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 0名）
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第85回横浜市立大学法人評価委員会会議要録（案）について</li> <li>2 令和2年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績報告について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 業務実績報告</li> <li>(2) 決算及び財務諸表等</li> </ol> </li> <li>3 公立大学法人横浜市立大学の第3期中期目標期間の中間点における業務の実績報告について</li> <li>4 その他</li> </ol>
決定事項	
議事	<p>主要な発言は、以下のとおり。 （○：委員発言、△：法人・事務局発言）</p> <p><b>※議題1について&lt;資料1&gt;</b> 特に意見なし</p> <p><b>※議題2について&lt;資料2&gt;&lt;資料3&gt;</b></p> <p>○病院の活躍について、まずは敬意を表したい。それに関連して2点聞きたい。1点目は、資料3-4で、それぞれの取組が実を結び、華々しい部分はかなり出ているが、令和2年の初め頃は、新型コロナウイルスが、どういう感染症なのかよく分からないということで、医師もそうだが、特に看護スタッフが相当程度に精神的ストレスを受け、場合によっては精神科の医師も含めて、相当程度活躍していると想像するが、その辺りも教えてもらいたい。</p> <p>2点目は、令和2年度の収支について、コロナのおかげというのは変だが、コロナの補助金によって、財政的に危ない病院がプラスの結果を出している。令和2年度に関しては悪いことではないが、今後のコロナを踏まえた医療、患者の行動等を考えると、大学病院にはもともと重症患者が多いというのはその通りだが、一般病院においても軽い患者は病院に来なくなるだろう。つまり、外来患者も入院患者も減ったものは、コロナの前の水準に戻ることは無いだろうという予想もある。今回は令和2年度収支なので、私はそれで良いと思うが、この先、3年後～10年後を考えると、コロナがもし無ければ補助金は基本的に無いわけで、コロナのために一般病床をかなり制限したり、感染管理のために人的物的投資をしたりしているので、単純にコロナが無かったらどうなただろうという話はできないが、できないなりに、令和2年度の収支の中からコロナが無ければこの程度だろうという試算は如何か。コロナのために患者が減ったという話は、先々も減っていくだろうということを考えざるを得ない。日本病院会の会長が、20年後の景色があつという間に数年後の景色になっていくと表現したほどに、コロナの件はエポックとしてはコロナなのだが、もしコロナが無かったらどうだったかという話を議論しているのならば教えてもらいたい。</p> <p>△看護師のストレスは大きく、精神科のスタッフが、院内の精神的ストレスに対応するチームを立ち上げ、院内の見回りや、訴えがあったスタッフへの対応を行った。アンケートを実施し、実際に患者を診ているスタッフだけではなく、他のスタッフにも、どれだけ精神的な負担がかかったかについてデータを取り、英語論文を発表している。これらの対応も</p>

功を奏し、例年と比べて退職する看護師が増えたということにはなかった。むしろモチベーションが上がり、バーンアウトしないように、皆で注意しながら維持してきた。このような取組についても書き加え、対応したということを明らかにしていくことも良いことだと思った。

○基本的な努力があったに違いないと思っていたので、ここで表現したら良いのではないか。

△4、5月はコロナで患者数が減ったが、その後附属病院は、特定機能病院ということもあり、速いペースで患者が戻った。コロナのために閉鎖している病棟があるため、使用できる病棟を以前にも増して高回転させ、できるだけ多くの患者を、入院期間も短縮して診ており、例年より改善した部分もある。様々な医療加算を取るようにし、これまでに準備してきたことの成果が出てきたこともある。コロナ関連の補助金が入っても、コロナ対応関係で使われる。センター病院は、特定機能病院ではないこともあり附属病院と比較して患者の戻りが遅く懸念されたが、経営努力によって回復してきている。

△資料3-2P2の附属病院、経常収益では、補助金等収益の内、コロナ関連補助金が24億となっている。コロナ関連補助金が無ければ4億の赤字だったということが見て取れる。院内では仮に4、5月が例年通りの患者数で、今まで通り経営改善プロジェクトを進めながら、新入院患者の確保と入院期間IIの達成率を高めるという取り組みをしていれば、ほぼ収支均衡からプラスになるだろうという判断をしている。ただコロナの状況を踏まえ、今まで以上に個室の希望が多くなっており、患者の需要と感染症対策の充実を踏まえながら、今年度、病棟の個室化を図っていく。現在も1病棟閉鎖しているため、今後に向けて少ない病棟編成の中でも患者の受け入れしっかりとやっていきたい。

△コロナに伴う離職はゼロとなっている。当初は未知なる感染症と言われていたが、適切な予防策を講じれば恐れるに足らずということで、しっかりと予防を行いながら向かっていくという姿勢であった。一方で、食事や仕事後の過ごし方など様々な制限をかけていたので、精神的に厳しい状況があったことに関して、精神科専門の看護師や精神科医師などによるフォローを欠かすことなく実施してきた。

経営については、資料3-1P3の1-3利益要因で、センター病院の入院患者数が前年度と比較して約3万人減少した。これに入院単価を掛け、単純計算ではあるがコロナの入院減収額が26億と試算される。一方、補助金は病床確保の関係で20億近くあったが、支出もあり、26億の減収を補える補助金にはなっていない。そうした中、令和2年度中に新規に取得した加算は、年度途中からではあるが約3億の効果をもたらした。コロナ対応で危機ではあったが、院内の意識で新たな加算を取得したことは、今後もコロナ対応は一定程度続くが、一方で補助金は無くなっていくかもしれない中で、補助金が無くてもやっていける準備と対応一部が実を結んだ結果だったと考えている。

○資料2P4、なお書きの説明があったが、新型コロナの影響が非常に大きく、制約が色々あったということで、(1)(2)(3)のケースがあるということは理解できるが、例えば(1)代替措置を取る可能性(余地)はあったが、しなかった→B評価、(2)代替措置もとることが不可能。または、理由がありできなかった。→全般を見て判断というのは、評価を見た時に、こういうことがあったのでBになっている、Aになっているというのは、普通に何もなくて評価をして、AだとかBだとかいうのと区別がつくようになっているのか。普通にAだとかBだとか、こういうことがあったのでBなのかAなのか、分かるようにしてはどうか。気になるのが(1)の代替措置を取る可能性があったが、しなかったというのがどういうケースなのか、それはなぜなのか。(2)の理由がありできなかった。その理由というのは、むしろそういうケースがあるということが気になってしまう。その辺が、一目見て分かるようになっていないと良いと思うが、どうか。

△(1)(2)(3)というのは、評価をする前に法人で定めたもので、結果として(1)(2)はなかった。(3)の代替措置に取り組んだということについては、実績報告書では一目で分かるようになっていない。事務局を通じて、個別に分かるようにしたいと考えている。

○コロナという特殊な環境下でのことについて、それをいわば異常値としてどうとらえるかというのは、非常に数値的にも難しく、何より解釈として本当に白黒できるかというところが難しいと思う。結果としてBは無かったということだが、令和2年度は、コロナの影響が、決算上も様々な施策を実行する面においても、すべてのところに出ている。コロナがあり、補助金があったにせよ特殊な年度の中でやってきたので、数値的に素直に評価すれば良いのではないかと思う。

施策についても、大変な苦労の中でやってきた事なので、むしろ前年度の評価に関しては、数値的な定量評価も施策における定性的な評価も、基本的にコロナだったからということでは、むしろ前向きに捉えた方が良い。今後の議論の中のことになるが、むしろ今年度について少し悲観的にみるのか、あるいは前年度と同じ見方の中で進めていくのか、その判断がむしろ大事かと思う。

評価に関しては、良い意味で前年度は割り切らざるを得ないのではないか。

看護師についての話があったが、学生についてもモチベーションやマインドが前年度からどのように変化し、取り組んだのか、どう支援したか等、具体的に記録に残した方が良いのではないか。

(2)の中で、教育面でハイブリットで授業をやらざるを得なかった。今も多少実施していると思うが、FD研修とは、学習者側(学生)が参加して色々変えていくもので、具体的にどのように取り組んできたのか、過年度の同じ施策でも、今年度はコロナがあったために一生懸命取り組み、新たな取り組みをやった等、むしろ前面に取り上げたら良いのではないか。

最後、質問を1点。資料2P3経営面、ファンドレイザーを中心としてとあるが、ファンドレイザーというのは実際に学内におり、資格を保有しているのか。

△ファンドレイザーについては、資格は無いが、昨年度から一般任期付職員として1名配置している。

○嘱託での雇用でファンドレイザーという職名を与えてはいるが、いわゆる認定資格を取っているということでは無いのか。

△全学でのオンライン講義の実施は初めてだったため、教員の研修を実施し、よりレベルの高いオンライン講義ができるように、FDを繰り返し行った。学生の満足度についてアンケートを実施し、かなり高い満足度となっている。学生同士が対面できないことがマイナス面だったが、後期からは6割以上対面授業にした。今年度、前期は7割以上対面授業にしている。

△経済的な側面から、学生が困窮し中途退学を余儀なくされることを危惧したことがあった。昨年一昨年と比べて、退学者のパーセントが増えたことは無い。

△一方で、メンタル面の問題を抱えている学生の割合は、例年より高くなっている。保健管理センターが対応をしているが、目に見えないところで少し影響は出ていると思う。

○海外からの留学生は、どうだったのか。困窮や経済的問題で、帰国したのか。

△昨年度の留学生の状況については、日本人学生と大差はなかった。アルバイト収入が減った学生は一部いたが、それにより生活が困窮し退学した事例はなかった。

△途中で帰国し今年度に入って入国できずにオンラインで授業に参加し続けている学生が何人かいる。

△オンラインであるがゆえ問題ないが、例年通り、対面になるとメンタル不調が出てくる学生が出ることも考えられる。差引して総計では例年並になっているかもしれない。オンラインで助かっている学生も確実にいる。

○在宅勤務でテレワークをやればやるほど不安になり、メンタル不調は増える。むしろコロ

ナ前は在宅勤務をやりたいと言っていたが、結果としてコロナでやらざるを得なくなり、やったところ結構メンタル面の所が相当数出てきて、カウンセリングをやっていかなければならない状況になっているようなので、学生は社会人とは違うかもしれないが、そういうところもあるのではないかと思った。

△昨年、学生の健康診断時に一年生にアンケートを取った際、約17%メンタル的不調が見られた。今年は、約12%となっている。例年は6%程度なので、やはり影響が出ていると思う。健康管理室からは、何となく不安であるといった比較的軽症が多く、重症はごく稀であると聞いている。

○コロナで学習環境が変わり、今後、今まで通りにいかないのかもしれない。古典的な大学という観点から変わり、教える空間があれば良いではないかという話になっている。今やリモートは当たり前で、現在のコロナ禍での形態が、場合によっては今後も続く可能性がある。先生と会わず、友達とも会えないという中で、卒業する学生も出て来るかもしれない。教育とは何だろうと考え続けなければならない。古い世代の倫理観や価値観では通せない。先ほど委員から提示されたコロナ禍だからできた、できないというテーマの対応については、次回の評価をまとめる時にも考慮していきたい。

○私立大学の大半は、昨年度はお金が余った。学生が来なかったので光熱費を使わなかった。先ほどの話のように、どういう風に評価するか難しく、大きな問題を孕んでいることになる。どのようにオンラインでやったか、対面でやったかということも記載し、アンケートも実施し、様々なことが書かれていたが、もう少し具体的なことが分かると、評価しやすいかと思う。P7は、S評価ということで、よくやったという自己判断だと思うが、もう少し具体的なデータがあると良い。評価に際し、コロナの問題をどのくらい勘案して考えるのか、一生懸命やったことは評価すべきだと思う。

○P4の(1)(2)(3)の(3)が…今の質問に答えする形でお願いしたい。

○資料を集めるのは大変なことだと思うが、こういうことをやって大体何%だということが、多少分かれば判断しやすいし、参考にしたい。

△P7【3】のS評価については、補完した形でお示しする。

○資料2 P2の中段「地域貢献面では～横浜市のシンクタンク機能をさらに高めた」というところで、地域貢献センターとは、市のシンクタンク機能を高めるためのセンターなのか。市民や横浜市内外への貢献を含め、市から発信する機能があると期待したのだが、これだと市の御用機関みたいな感じがするが。

△地域貢献の大学の目標の一つとして、横浜市のシンクタンク機能を担う点がある。地域貢献コーディネーターは、横浜市のことにも良く知っており、市大の教育、研究にも精通し、橋渡しする役目として連携を進めている。このセンターは地域貢献全体を扱っているが、中でもこのコーディネーターは横浜市との橋渡し役を担っている。

○地域貢献センターは、横浜市の行政機関では無い。市民や一般人への発信ではなく、市の内部の御用機関みたいな印象を受けてしまうので、それはセンターの機能とは違う。もっと広い機能の中でやっていると紹介すれば良いのではないか。

△誤解を受けないような表現にする。

○冊子を作るのはコストがかかる。大学の教員の専門分野、研究業績をホームページ等で公開しキーワード検索でどこからでもアクセスできるようにすれば良いのではないか。嫌味な質問になるが、資料3-1 P17の病院長メッセージで「拾わない」はコロナ菌についてだと思うが、ゴミではないので気になった。もう一点、P20のテーラーメイド型学修支援プラットホームの構築とあるが、オーダー

メイドではいけないのか。J S Pからの補助金のフレームワークの表現であるならば仕方がないが、こちらから提案するのに、テーラーメイド型というのはどうなのかと思う。

△病院長メッセージの「拾わない」はコロナのウイルスを拾わないという意味で周知した。テーラーメイド型については意見交換をすることで、そのような使い方をしていたため、テーラーメイド型という名称を使ったが、学生はオーダーメイドを案外使っていることもある。

○アメリカのネイティブスピーカーは、オーダーメイドは使わず、テーラーメイドだと分かると思うが、それと一般人に受け入れられるかというのは違うと思う。ゲノム研究が盛んな頃に地域医療とかでテーラーメイド医療という使い方をした。その伝統がいまだに残っているが、私はおかしいと思う。法人がそれで良ければ良いが、国の表現が変だと思えば従う必要はないのではないかな。

○先ほど利益処分額の説明があったが、従来通り教育研究の質もそうなのだが、もう少し踏み込んで書いてもいいのではないかな。例えば医療面、医学部でいうとコロナを経験として、様々な先端医療にかかわる投資を、これを機会に計画的にやっていくとか、大学の在り方が色々な形で議論されると思うのだが、学生や入学しようとしている高校生から見て、特徴ある大学ということ掲げて、コロナ禍であるけれども得た財産を使っていくという考え方を少し意識して書いた方が良いと思う。

企業は、SDGs、ESG、CSR等にどれだけ取り組んでいるかという話が無いと説明がつかなくなっている。学生も就職活動時にその点を問われる時代になっているので、大学としての横浜市立大学は本来特性のある大学なので、そこを強調して必要な投資をやっているということ踏み込んで書いてもいいのかなという気がする。

○政策の資金なので有効に使うとして、限定した用途以外に使いたくなる部分もある。市の財政当局に絡まれないよう活用願いたい。

△最終的の利益処分については、財務諸表の承認と合わせて横浜市の方で承認すれば決まり、具体的な使途については、文章上には大きな形ではこうなるが、どう使っていくべきか議論しながら最終的に承認していこうと考えている。意見を踏まえながら、大学と調整していこうと思う。

△先ほどコロナが無かったら収支均衡との説明をしたが、今後は患者が減っていくため、どうやって患者単価を上げていくのか考えている。例えば外来で使われていない小さな手術室を改修し手術室を増やし、病棟では個室化を進める。遠隔診療に投資し、集患に努め診療域を広げるといことを病院では考えている。

教育研究面では、留学生会館に投資し、市大の特徴の一つであるグローバルに力を入れていこうとの話が出ている。そこのところを横浜市に認めていただきたいと思っている。

○先ほど資料2P2地域貢献センターの話があったが、人文社会科学系教員の研究分野等を分かりやすく書いてあるが、そもそも横浜市大は資料の中期目標がある。前文があり、研究組織が人文社会科学といったときに相対するのは自然科学である。横浜市大はそもそも自然科学と人文社会科学をばっちり分けたような思想体系ではないだろうと以前から思っていた。国際総合科学部もデータサイエンスも医学部も西洋医学という意味では医科学だが、これら社会科学的な、ある意味哲学的な、形而上学的なそのようなセンスをもっていないと、やっていけないのではないかな。露骨に人文社会学と出てくると、これはいったい何か、という素朴な疑問がある。冊子を作り、電子媒体とするのか。この2行程度は、添削した方が良いのではないかな。細かなことかもしれないが、横浜市大はどういう大学なのかという話を、もう少し大所高所からやっていただきたいと思う。

△本学は都市社会文化研究科、国際教養学部がある。特に横浜市の施策と近い研究をしている教員が多いので、まずはそこをまとめた。もう少し書き方を変えても良いと思う。電子媒体も当然作っており、ホームページに掲載している。ただホームページに電子媒体が載

っているというだけでは、なかなか共有されないので、PR用に冊子を作っているが、基本は電子媒体である。

○大学が作成した報告書というのは、市民に公開されるのか。

△最終的に評価が終わったときに発表するものに添付されて出てくる。

○市民の目に触れるものであれば、今の話も含め少し訂正しても構わない。

### ※議題3について<資料4>

○P1(1) 中間振り返りの考え方及び評価基準。今回は年度の当初の計画に対してどうかということを自己評価している。社会の変化に伴って生じた課題、すなわち令和2年度、この4年間の最終年度のところで大きくコロナが出てきたわけなので、ここで言っている生じた課題というのはそれも含んでいる。生じた課題等も含めて進捗状況を確認し、どう具体的に対処したかという意味だと思う。

一番最後、第3期中期計画の達成と第4期中期計画の策定に向けてというのは、その次の流れだと思うのだが、振り返りで明確になった課題については、2年で取り組むとともに、法人のさらなる発展のため、中長期的な視点に立ちと書いてあるが、それぞれの議論が巻き起こると思うが、コロナがあったおかげで今後取り組まなければいけないということが、様々な面が出てきたので、プラスアルファといった形で、この2年間取組み、それは次期中期にも持ち越さないといけないということが多々ある。一方、コロナにより、コロナ前(平成29年)に立てた当初計画に矛盾をきたすような話については、ここで交通整理をして、メリハリをつけた方が良いと思う。そういったものがどの程度あるのか、まずこの2年間の評価したところでそれを基にして、残り2年間やっていく、そこでまたどういう状況が起きるかということがあがるが、それを次の中期計画に生かすのであれば、将来にわたって新たな課題としてやっていくべきこと、当面の対処的な課題としてやっていくことを整理した方が良いと思う。特にコロナによって起きたことにより優先順位が違ってくるのではないかと。残りの2年間は当初中計を立てているので、プライオリティが変わっても、やるべきことは恐らく着実にやらなければいけないが、次の中計を意識すると、コロナでプライオリティが変わったことにより、次期中計で取り組むべきかなりの骨格になってくる可能性もあるが、これは分からない。いろいろな意見を聞き、自己評価の所は少し整理をした方が良い。

○資料4 P7 政策医療【22】に、ランドマークタワー7階「NANA Lv.」に読影端末を設置し読影を開始したとあるが、病院と違う場所で読影をしているというような単純な話ではない。資料3-1 P21 放射線画像診断体制の強化というのがあり、AIを搭載した読影補助システムとあるが、今病院で問題になっているのは、画像診断の読影をしていた場合に、主治医がちゃんと読んでいなかったとか、後々その患者が肺がんになった何年か前の写真を見ると、確かに肺の部分にがんとおぼしきものがあり、当時から見れば見逃していたということがあった。要するに画像診断を遡ると、患者側からすると横浜市大が見逃したと主張できるような話が、これから起こる可能性がある。AIを搭載した読影補助システムは、人が読み切れない部分まである程度目星をつけ、その部分を放射線科の医師が見るということをしていけば、何年か前に遡ってがんがあったのではないかとという話に耐えられるのではないかと。医師の厳しい局面を克服できるという可能性があるという意味で、当初の遠隔で画像を読むというだけではなく、先の先まで見越した話があるのではないかと考えて見ていた。そのような観点でいうと、中間点における業務の実績報告の中には、世界が解決しなければいけないテーマを、横浜市大がこういうふうな形でやっているという位置づけを入れ込むと、インパクトがあるのではないかと。大学病院でこういう話をする時には、この国の医療の先の先へということも含めてやるのだという、横浜市大は色々な意味で負の歴史を持っているので、そういうものをプラスに変えるような、すごくインパクトのある話だと思うので、上手に記述するのが良いのではないかと。

	<p>△この読影端末を設置した医師が言うには、A I 診断は、まだ先の話になるが、まずA I で怪しそうなところをピックアップし、それを最終的に人間が確認する仕組みである。アナログだが読影の人数を増やし、遠隔により在宅でも読影できるような仕組みを開発する話もある。もう少し分かりやすいように記述を増やしたい。</p> <p>△評価書作成スケジュール等、連絡事項の説明。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配布資料]</p> <p>資料 1 第 85 回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録 (案)</p> <p>資料 2 令和 2 年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績報告書</p> <p>資料 3-1 令和 2 年度決算報告資料</p> <p>資料 3-2 令和 2 年度決算概要報告</p> <p>資料 3-3 令和 2 事業年度財務諸表等</p> <p>資料 3-4 令和 2 年度決算における利益処分額 (当期総利益) について</p> <p>資料 4 公立大学法人横浜市立大学の第 3 期中期目標期間の中間点における業務の実績報告書</p> <p>資料 5 評価記入用紙</p> <p>[参 考]</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>